



🚗 快適な道路利用のための調査です。

道路の国勢調査 **道路交通センサス** を実施します

～ 道路や道路交通の状況を全国的な規模で調査します ～

「**道路交通センサス**」は、交通量や道路の利用状況、交通渋滞状況などを調査、分析して、これからのみちづくりやまちづくりに役立てている大切なものです。この調査は昭和3年から続けられ、全国一斉におよそ5年毎に行っている道路の国勢調査で、今年がその調査年となっています。  **資料1**

国土交通省では、関係省庁、都道府県、政令指定市、道路関係公団などと連携して、交通量の観測、アンケート調査などを行います。

今回調査の特徴として、調査手法の効率化やコスト縮減の観点から、機械観測による新たな調査手法の導入や、近年着実に車両数が増加しているETC装着車を対象とし、インターネットを利用したアンケートを実施します。  **資料2**

東北地域では、10月から11月にかけて、調査を行いますので、ご協力お願いいたします。

■調査スケジュール

		調査箇所・調査対象	調査予定日	予備日
一般交通量調査	道路状況調査	高速道路、一般国道、都道府県道、一部の指定市の一般市道	9月～11月	
	交通量調査(1)		10月～11月	
	旅行速度調査(1)		10月～11月	
路側OD調査	路上路側OD調査	(山形県) 国道7号、国道113号 (福島県) 国道49号、国道294号、国道349号(2) (茨城県) 国道6号、国道118号(2) (栃木県) 国道4号、国道121号(2) 以上の県境付近	(平日) 10/19(水)	(平日) 10/26(水)
	郵送OD調査	東北6県内の高速道路等の 主にインターチェンジ料金所で実施	(平日) 10/19(水) (休日) 10/16(日)	(平日) 10/26(水) (休日) 10/23(日)
	フェリーOD調査	(青森県) 青森港、八戸港、大間港 (宮城県) 仙台港 (秋田県) 秋田港	(平日) 10/19(水)	(平日) 10/26(水)
オーナーインタビューOD調査		東北6県の 自動車をお持ちの方の中から 無作為に選定された方	(自家用車)10月～11月 (営業用車)10/2(日) 10/6(木)	

1: 平日・休日のそれぞれ調査します

2: 国道4号、国道6号は関東地方整備局。国道118号は茨城県、国道121号は栃木県で実施。

■調査実施機関

国土交通省 東北地方整備局、青森県、岩手県、宮城県、仙台市、秋田県、山形県、福島県、日本道路公団 東北支社 の9機関で行います。

発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者クラブ、東北専門記者会

問い合わせ先



国土交通省 東北地方整備局 道路計画第二課 TEL 022-225-2171

課長 伊藤 友良 (内線4251)

課長補佐 横山 修司 (内線4252)

1. 道路交通センサって？

「道路交通センサス」は道路の国勢調査です。

道路交通センサスは、全国の道路と道路利用の実態を捉え、将来の道路整備の方向を明らかにするため、全国の道路状況、交通量、旅行速度、自動車運行の出発地・目的地、運行目的等を調査するもので、道路に関する国勢調査ともいうべきものです。

センサスの意味：センサスの語源は古代エジプトや中国等で行われた人口調査の事で、現代では転じて国勢調査や全数調査の意味に使われています。

目的は？

道路は、わたしたちの日常生活を支える非常に重要な社会資本ですが、車利用の増加に伴い、渋滞や地球環境への影響など多くの問題点を引き起こしています。

このため、国土交通省では道路交通の現況と問題点を把握し、様々な問題への対策や、将来にわたる道路の整備計画を策定するための基礎資料を得ることを目的に、道路交通センサス（正式名称は「全国道路・街路交通情勢調査」）を行っています。

いつから？

道路交通センサスは、いわば道路に関する国勢調査として、昭和3年度に道路改良会が実施した「全国交通調査」に端を発し、昭和55年度以降は概ね5年に1回（昭和55年度、60年度、平成2年度、6年度、11年度）の割合で実施しています。今回の調査は平成11年度以来6年ぶりの調査となります。

2. 今回(平成17年度)の道路交通センサスの特徴は？

実施時期を変更しました

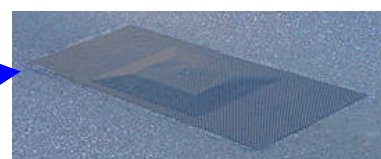
従来の全国統一日調査から、**調査期間に幅を持たせた調査**へ変更しました。
（ 調査機器の使い回しや調査負担軽減が目的）

機械計測の導入します（一般交通量調査）

一般交通量調査のコスト縮減、データ精度向上等の観点から、簡易トラフィックカウンターや、GPS機器を搭載した自動車により走行経路の位置情報を取得するプローブカーデータの活用など、機械計測を導入します。

簡易トラフィックカウンターとは？

路面に貼りつけたセンサーが、車両が通過することにより発生する磁力線の歪みを車両情報として認識し、自動車の交通量等を測定するものです。

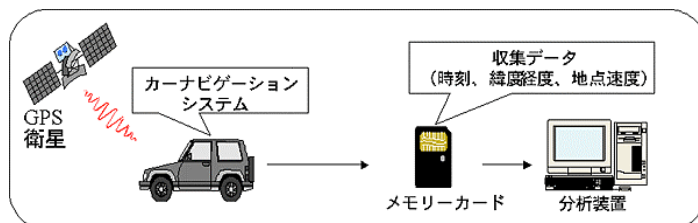


◀ 簡易トラフィックカウンターによる交通量測定状況

プローブカーとは？

プローブカーとは、GPS搭載カーナビやPDAなどの調査機器を装備した車両のことで、主に時刻や位置座標などの、車両の位置情報を一定時間間隔で収集(記録)することが可能な車両のことです。

収集データを地図データに対応付け(マップマッチング)し、調査区間の起終点を通じた時刻を抽出することにより、区間の旅行速度(速度)、渋滞時速度がわかります。



インターネットOD調査を導入します(路側OD調査)

高速道路の路側OD調査では、高速道路等のインターチェンジの入口等で調査票の入った封筒を配布し、記入後10日以内に郵送にて返送してもらい回収する方式(郵送OD調査)により、出発地・目的地等の運行状況を把握する調査を行います。

一方で、高速道路等ではETCのご利用が着実に増加しており、現在全体約4割の方にETCをご利用頂いておりますが、ETC車は料金所をノンストップで通過するため、従前の郵送OD調査を実施することはできません。

しかし、ETC車の調査を実施しないことは、高速道路等を利用して頂いている車の出発地・目的地等の運行状況を正確に調査したことにはならないことから、ETC装着車に対しましては、アンケートを道路公団のホームページ上に掲載し、そのアンケートに回答して頂くことにより運行状況を調査するものです。

この調査は、今回の道路交通センサスで新たに実施する調査です。ETCを利用して頂いている運転者の方々は、是非ともご協力の程お願い致します。

休日調査を廃止(路側OD調査)

休日路上路側OD調査で把握されるトリップのうち、4割強が家事・買い物等の日常生活圏内の利用であり、オーナーインタビューOD調査で代替することとして廃止。

路上路側OD箇所の見直し(路側OD調査)

路上路側OD調査は、オーナーインタビューOD調査では充分把握しきれない長距離トリップを捉えることが目的です。

本州内のコードラインの距離的バランスを考え、コードライン()の位置を見直し・廃止しました。

東北地方においては、前回、北東北(岩手 秋田)～南東北(宮城 山形)の県境付近で調査していたものを、今回は、東北地方～関東地方・北陸地方を横切る道路で、聞き取り調査を行います。

コードラインとは、地域ブロックを超えるような比較的少数の自動車の動きを精度よく補足するために地方整備局際や都道府県際に設定した調査ライン

